

# はちや 蜂屋遺跡 (栗東市蜂屋ほか)

蜂屋遺跡は、縄文時代～江戸時代の集落跡です。平成 28 年度～令和元年度に行った発掘調査では、古墳時代から鎌倉時代までのたくさんの遺構・遺物が見つかり、ながく人々が暮らしてきたことを物語っています。とくに、飛鳥時代（7世紀後半、およそ 1,300 年前）の区画溝跡や約 16 トンにもおよぶ瓦は、当時この地にお寺があったことを示しています。



区画溝跡から見つかった軒丸瓦とその模様 (左上)

## 《古代瓦キーホルダーのデザインのもととは?》

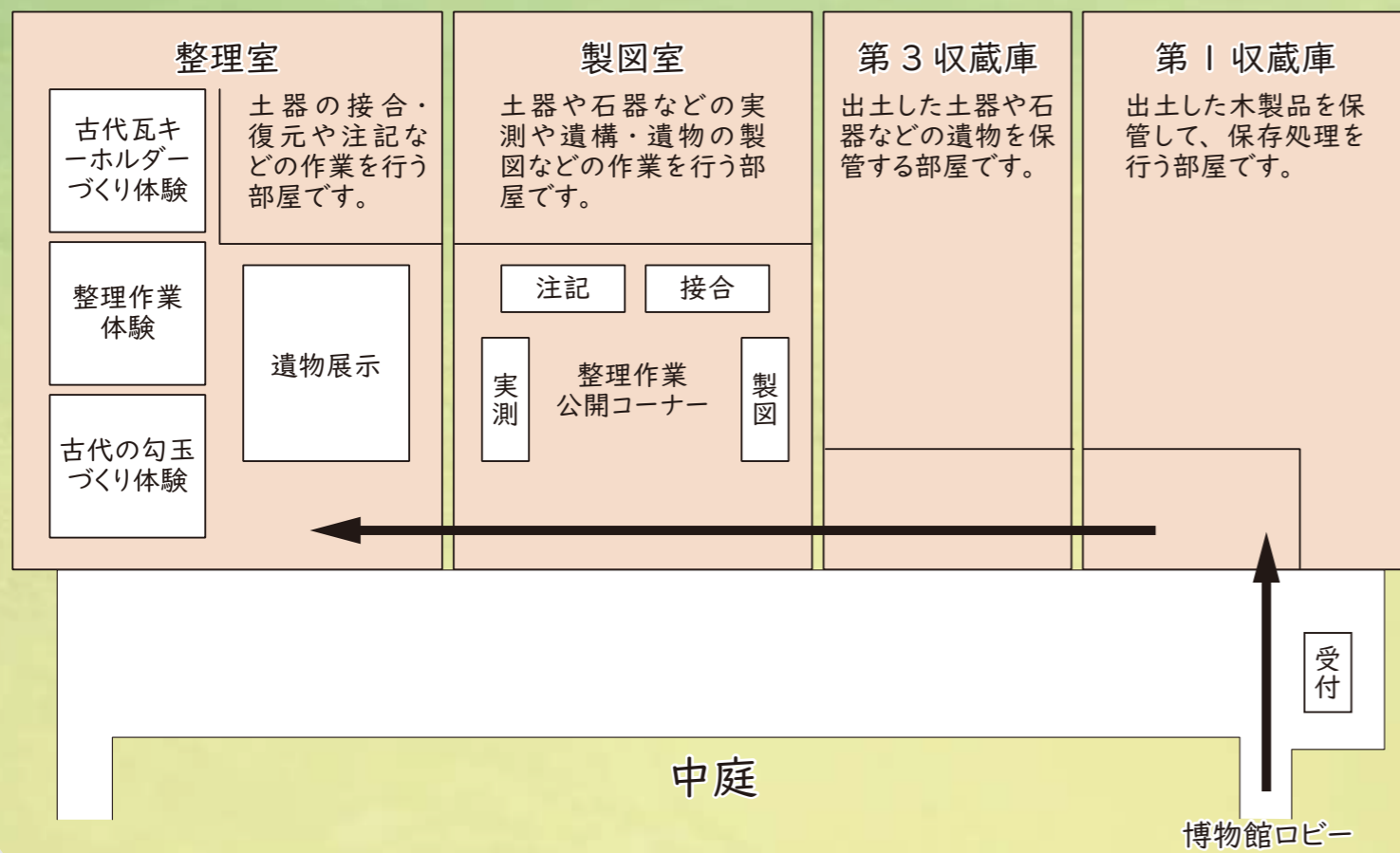
体験講座で作ることができる古代瓦キーホルダーのデザインは、蜂屋遺跡で見つかった飛鳥時代の軒丸瓦の模様をもとにしています (原型制作: 文堂準氏)。奈良県法隆寺の瓦と同じ模様が使われていて、この模様を「法隆寺式」といいます。蜂屋遺跡の寺と法隆寺との深いつながりがうかがえます。

「複弁蓮華文」と呼ばれるこの模様は、蓮の花をモチーフにしています。東大寺の大仏をはじめ、仏像の台座の多くも蓮の花をかたどっています。蓮は泥から生えているのに美しい花を咲かせることから、極楽浄土を表す、仏教を象徴する花なのです。



丸瓦と平瓦を使う「本瓦葺」の軒先の軒丸瓦と軒平瓦蓮の花

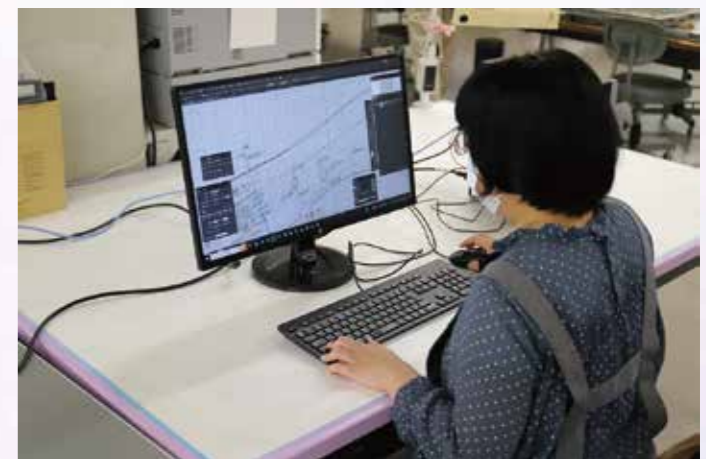
## 《会場案内図》



# 整理室へようこそ!! 見て・触れて・感じる考古学

## 整理室では…

整理室では、発掘調査で見つかったモノの“資料化”を行っています。整理作業を行うスタッフが、見つかった場所の情報をモノに書いたり (注記)、土の中でバラバラになってしまった土器をくっつけて元の形に戻したり (接合・復元)、測って図にししたり (実測)、できた図をデジタル化したりして (製図)、『発掘調査報告書』を作っています。スタッフたちの熟練のワザを、ぜひ目の前でご覧ください。



公益財団法人滋賀県文化財保護協会  
ホームページ  
最新情報



Youtube  
「しがぶんちゃんねる」



# ◇ 整理調査中の遺跡を紹介 ◇

## 大門池南遺跡（犬上郡多賀町敏満寺）

大門池南遺跡は、犬上川右岸の扇状地に立地します。昭和 19 年（1944）に平安時代の銅銭「隆平永寶」約 80 枚が出土したことから、当時の墓跡と考えられてきました。

令和 4・5 年度に行った発掘調査では、2 時期の墓が見つかりました。平安時代前期（約 1,100 年前）の墓 1 基からは、隆平永寶 15 枚や石製の丸靱（役人が正装時に巻くベルトの飾り）などが出土しました。これらの副葬品から、葬られたのは地域の有力者と思われます。室町時代（約 600 年前）の墓は火葬墓 4 基で、そのうちの 1 基からは当時流通していた中国の渡来銭 60 枚が、紐で連ねた緡銭の状態で見つかりました。異なる時代の墓がほぼ同じ場所にあったことから、この場所は長く墓地として利用されたのかもしれませんが。



平安時代前期の墓



室町時代の火葬墓に埋められた渡来銭

## 佐和山城跡（彦根市鳥居本町ほか）

佐和山城跡は、室町時代～安土桃山時代の城館跡で、はじめは鎌倉時代初め（約 800 年前）に近江守護・佐々木定綱の六男時綱が構えた館といわれています。戦国時代（約 500 年前）には湖北の京極氏・浅井氏と湖南の六角氏が戦いを繰り広げ、のちに織田信長と浅井長政の争いの舞台となりました。天正 18 年（1590）に石田三成が入城し、文禄 5 年（1596）には大規模な拡張を行って本格的な城として整備したと考えられています。しかし、慶長 5 年（1600）の関ヶ原の戦いで三成が敗れるとまもなく落城し、の

ちに徳川家臣の井伊直政が入城しました。しかし、慶長 8 年から西側にある彦根山に新たな城が築かれ、城下町までも彦根城へと移されました。

平成 30 年度～令和 4 年度の発掘調査では、城下町のメインストリート「本町筋」や外堀跡などが見つかりました。外堀は、埋まっていた遺物から文禄 5 年の拡張で掘られたと考えられ、年代がわかる貴重な成果です。陶磁器には信楽焼・備前焼・常滑焼・瀬戸美濃焼・志野焼のほか中国産磁器があり、当時の流通の広がりがうかがえます。



佐和山城跡の外堀跡

## 高野遺跡・六地蔵遺跡（栗東市六地蔵）

高野遺跡・六地蔵遺跡は、野洲川左岸の扇状地に広がる、古墳時代～室町時代を中心とした集落跡です。

平成 30 年度～令和 6 年度に行った発掘調査では、古墳時代の竪穴建物跡や古墳、奈良時代～平安時代の掘立柱建物跡・炉跡や道路跡（古代東海道）のほか、室町時代にいたる遺構・遺物がたくさん見つかりました。遺物は、須恵器や土師器といった土器類や砥石などの石製品があります。奈良時代～平安時代の遺物には、銅鋳石・鉄滓・銅滓や銅が付着した土器、フイゴの羽口などもあったことから、その当時、この地で金属の精製や小型品の製作を行っていたことがわかりました。



古代の炉跡



銅鋳石・鉄滓・銅滓

## 出庭遺跡（栗東市出庭）

出庭遺跡は、古墳時代～近代の集落跡です。

平成 30 年度～令和 4 年度に行った発掘調査では、古墳時代中期（およそ 1,600 年前）の鍛冶工房や玉造工房に使われた竪穴建物跡などが見つかりました。これらの建物跡からは、須恵器・土師器といった当時よく使われた土器のほか、大陸からの渡来人が作った韓式系土器も見つかりました。また、ガラス小玉を作るための土製鑄型も見つかりました。これはとても珍しいものです。



鍛冶工房と考えられる竪穴建物跡

## 朽木陣屋跡（高島市朽木野尻）

朽木陣屋跡は、室町時代の居館跡及び江戸時代の陣屋跡です。鎌倉時代前期の承久 3 年（1221）より土豪朽木氏がこの地に館を構えたとされ、陣屋（1 万石程度の領地を持つ大名の政務場所）に整備されたのは 17 世紀初めと考えられています。

令和 4 年度に行った発掘調査では、東隣の平成 12 年度調査で見つかった幅 5 m 以上の堀跡や道路の続きが見つかったほか、室町時代の墓も見つかりました。墓の中からは、遺体といっしょに埋められた 10 数枚の土師器皿が出土しました。



朽木陣屋の堀跡と登城道跡